

## アメリカ幼稚園運動期におけるキリスト教的人道主義の諸相 —幼稚園を拠点とした社会事業に着目して—

山本孝司（岡山県立大学保健福祉学部）

**要旨：**アメリカにおける幼稚園発展過程においてキリスト教教会が幼稚園事業に関わり始めるのが、1880年代以降の「拡張期」であり、この時期に、キリスト教教会は、一部には社会改革事業として、また一部には伝道的手段として幼稚園教育に着目した。他方で「拡張期」は、幼児教育施設として幼稚園が学校制度に編入されていった時期でもある。1873年のセントルイスを皮切りに多くの幼稚園が公立化し、それと並行してフレーベル主義の幼稚園教育理論および実践は、進歩主義の幼稚園教育理論および実践に取って代わられた。本稿は、フレーベル主義と進歩主義との間の傍流にあって、幼稚園を拠点とする社会事業の考察を通して、学校教育体系の一部として語られることになる幼稚園とは別様の展開を描き出し、そのうえで制度とは異なる位相であるエートスとしてのキリスト教的人道主義の幼稚園教育における展開を浮き彫りにする。

**キーワード：** アメリカ幼稚園運動 キリスト教的人道主義 慈善幼稚園 セツルメント

### 1. はじめに

#### 1-1. 問題の所在

19世紀60年代にはじまるアメリカ幼稚園運動は、厳密にはアメリカへのドイツ系移民によって出発した。アメリカの幼稚園は、その他の国でもそうであったように、フレーベル（Friedrich Wilhelm August Fröbel, 1782-1852）の思想を受け継ぐ施設としてはじまった。1860年にアメリカ人による最初の英語幼稚園がピーボディ（Elizabeth Palmer Peabody, 1804-1894）によって設立されたのをきっかけにこの運動は本格的に動き出した。

幼稚園とキリスト教の結びつきは、幼稚園の創始者フレーベル自身が、ドイツ福音派のルーテル教会牧師の子として生まれ育ち、彼自身も経験なキリスト者であったこと、そして著書『人間の教育』（*Die*

*Menshenerziehung*）に描かれた彼の教育思想がキリスト教の宗教体験を背景にしていることがあげられる。キリスト教教会が幼稚園事業に関わり始めるのが、アメリカにおける幼稚園発展過程において1880年代以降の「拡張期」であり<sup>1)</sup>、この時期に、キリスト教教会は、一部には社会改革事業として、また一部には伝道的手段として幼稚園教育に着目した。

他方で「拡張期」は、幼児教育施設として幼稚園が社会的にも認知され、学校制度に編入されていった時期でもある。1873年のセントルイスを皮切りに多くの幼稚園が公立化し、それと並行してフレーベル主義の幼稚園教育理論および実践は児童研究運動を経て、プラグマティズムを基調とする進歩主義の幼稚園教育理論および実践に取って代わられた<sup>2)</sup>。

アメリカ幼稚園教育史では後者に焦点を当て、アメリカ幼稚園の事業展開をフレーベル主義幼稚園の移入として生起し、幼稚園の公立化による学校教育制度への編制を経て、進歩主義教育期に小学校カリキュラムへの幼稚園カリキュラムの吸収統合の流れとして描くのが通例となっている。したがって、「拡張期」にあつてこうした流れとは異なるキリスト教教会の慈善幼稚園運動の動きに焦点を当ててその役割の評価を行った研究は見当たらない。

## 1-2. 先行研究および考察の視点

アメリカ幼稚園運動に関する研究は、ヴァンデウォーカー (Nina C. Vandewalker) が 1860 年代の「創設期」から 1870 年代 80 年代の「拡張期」を経て、1880 年代 90 年代に幼稚園が学校教育制度に組み入れられていく流れを通史的に描いている (Vandewalker, 1971)。この研究はアメリカ幼稚園運動史とフレーベル主義幼稚園の発展として描く典型を示し、以後のアメリカ幼稚園教育史の見解に影響を与えた。ちなみに日本において岩崎も、19 世紀後半以降の幼稚園運動をふくめたアメリカにおける幼児教育の歴史を、フレーベル運動史と重ねて考察している (岩崎, 1979: 60-61)。

またスナイダー (Agnes Snyder) は、国際幼稚園連合 (IKU)、全米初等教育評議会 (NCPE) の創設者・指導者の貢献についての論考を目的とし、「フレーベルの影響」 (Froebelian Influences) と題した第一部、「変化と課題」 (Changes and Challenges) と題した第二部で、マーガレテ・シュルツ (Margarethe Schurz)、スーザン・E・ブ

ロウ (Susan Elizabeth Blow)、ピーボディ、ケイト・ダグラス・ウィギン (Kate Douglas Wiggin)、アリス・テンプル (Alice Temple)、パティ・スミス・ヒル (Patty Smith Hill) 等主要な人物に対し一章を割いて論じている (Snyder, 1972)。

さらに、シャピロ (Michael Steven Shapiro) は、フレーベル主義からデューイ (John Dewey) に代表される進歩主義への流れを中心に、幼稚園発展の史的変遷を 1830 年代から 1980 年代まで十章に分けて論考している (Shapiro, 1983)。スナイダーとシャピロの研究に共通するのは、フレーベル主義を出発点としながらも幼稚園運動がセントルイスにおける幼稚園の公立化を経て、20 世紀の進歩主義教育において小学校を基調とする幼稚園カリキュラムの統合の歴史として描いている点である。

ビーティ (Barbara Beatty) は、幼稚園運動の前史となるアメリカ植民地時代から 1990 年代までの幼児教育の概観を行っているが、本書は古くは幼児学校、その後保育園、幼稚園といった就学前教育全般を対象とし、就学前教育の抱える制度的問題について明らかにした研究である (Beatty, 1995)。

最近の研究としては、アレン (Ann Taylor Allen) が『大西洋を横断した幼稚園—ドイツとアメリカにおける教育と女性運動』の中で、女性の社会運動と関連づけてドイツとアメリカにおける幼稚園運動史を論じている (Allen, 2017)。

本稿では、こうした先行研究の動向を踏まえ、1870 年代のアメリカ幼稚園運動のなかで、キリスト教教会が児童救済の「社会

運動」の一環として幼稚園教育をいかに吸収し統合していったか、他方において公立無償幼稚園が増設されるなかで、幼稚園を拠点として展開したキリスト教的人道主義的社会事業の果たした役割について明らかにすることを課題とする。

## 2. アメリカ幼稚園運動とキリスト教

### 2-1. キリスト教的人道主義

#### 1) 前史としての日曜学校

教会による布教を目的とした人々の教育は、日曜学校という形でなされていた。周知のようにその起源は、1780年のイギリス産業革命期のグロスターにおけるロバート・レイクス (Robert Raiks, 1735-1811) の実践に遡ることができる。アメリカでは、1790年代にサミュエル・スレーター (Samuel Slater, 1768-1835) によって、ロードアイランドで、彼の紡績工場の年少労働者を対象に始められた。レイクスやスレーターら企業資本家たちにとって日曜学校は、有効な社会事業の一つであった。その後、様々な宗派教会によって日曜学校が開設されたが、当初はそれぞれの宗派の宗教教育と伝道という性格が強かった。1790年にはフィラデルフィアにアメリカ初の日曜学校団体である「ファースト・デイ・ソサイエティ」(the First Day Society) も設置された。この団体はペンシルヴェニア州の貧困児教育を目的としており、特定宗派の宗教教育を一切行わず、聖書をテキストとして子どもたちに読み書きを、各宗派の日曜礼拝の合間に行った。

こうした日曜学校の取り組みに対して、当時のバプティスト牧師ジャドソン (Edward Judson) は肯定的に評価しながら

らも次のように述べている。「しかし、日曜学校では、不十分である、授業時間が短すぎるし、あまりにも間が空きすぎる。日曜日と翌週の日曜日の間に、原罪と俗心が忍び込み、神聖な気持ちを洗い流してしまう。もし授業が一日に30分、しかも週に一度しか行われず、しかも不完全で十分な訓練を受けていない無給の教師によって行われているとすれば、われわれは算数や地理の授業にどのような前進を図ることができるだろうか」(Vandewalker, 1971: 81)と。こうしたジャドソンの日曜学校に対する評価は、宗派によらず教会全体で共有されることとなり、その後、日曜学校で幼稚園部門を擁する幼稚園日曜学校(日曜学校幼稚園)が登場し、幼稚園の指導原理に基づいて日曜学校が運営されることとなった。

#### 2) 教会事業としての幼稚園教育

アメリカではじめて幼稚園教育を教会事業に取り入れたのは、1877年のオハイオ州のトリニティ教会(The Trinity Church)である。その翌年には、ニュートン牧師(The Rev. Heber Newton)によってニューヨークのアントン記念教会(The Anthon Memorial Church)が無償幼稚園を設置した。その後、次のような教会が幼稚園を設置した。すなわち、ニューヨーク州ニューヨークのアンサン記念教会(The Anthan Memorial Church)、ニューヨーク州ニューヨークの聖バーソロミュー・プロテスタント・エピスコパル教会(St. Barthoromew's Protestant Episcopal Church)、ニューヨーク州ニューヨークの中国長老派伝教会(The Chinese

Presbyterian Mission Church)、マサチューセッツ州ボストンのエブリディ教会 (The Every Day Church)、カンザス州トピカの中央教会 (The Central Church)、ミシガン州カラマズーの人民教会 (The People's Church) などである。

1880 年にはサンフランシスコにおいてゴールデン・ゲート幼稚園協会 (The Golden Gate Kindergarten Association) が組織され、幼稚園を教会事業として組織的に推進している (Vandewalker, 1971 : 76-77)。

ただし、カトリック教会は幼稚園教育事業には消極的であり (Allen, 2017 : 74.)、プロテスタントのなかでも温度差があり、ルター派教会は他の宗派ほど積極的ではなかった。概して、これら教会立の幼稚園は、その性格において慈善的・伝道的な無償幼稚園であった。ヴァンデウォーカーによると、四百を超える幼稚園協会のうち六十団体以上が教会によるものであり、公費によらない幼稚園が三千の幼稚園が存在し、そのうち教会によって運営される幼稚園が少なくとも三百あったと推計されている (Vandewalker, 1971 : 76)。

## 2-2. アメリカ幼稚園運動におけるキリスト教教会幼稚園

アメリカにおいて幼稚園は、ドイツよりも幅広い承認を得たが、その理由は主にドイツとアメリカの都市部の人口構造の違いによる。地域において文化的に同質であったドイツの都市部では、社会改革の課題としては主として貧困の緩和であった。それに対し幼稚園運動期におけるアメリカの都市部は、産業化工業化によって人口、

とりわけ移民人口が増加し、彼らに対する社会的なサービスが行き届かない状況であった。こうした状況下でアメリカの幼稚園教師たちは、新しい言語を学び、新しい文化に適応することに最適である幼児期に移民を含む幼児たちを教育することで彼らの仕事に対する社会的支持を得ることができた。

アメリカにおける多くの宗派の教会は、幼稚園の最も強い支持者となった。ドイツのカトリック教会およびプロテスタント教会とは異なり、1830 年代の幼児学校運動の失敗の後、アメリカの教会は就学前教育の方法を模索していた。教会は教会員のために、特に南北戦争後の工業化、産業化と都市化とそれに付随した移民人口の急増、経済的不均衡によってもたらされる貧困、道徳の頹廃の中で、自らの使命を果たそうと努めていた。そのなかで幼稚園によって幼児教育を提供することは、教会員を増やすための有力な方法の一つであった。

前出のジャドソンは、教会が「子どもに対する活動に適切な設備」を持ち得るとして、幼稚園の設置を訴えていた。「大きな街路の一つに立って、移民船から上陸する外国人の大波を見たとき、誰も驚き、絶望感に襲われる。奇妙な言葉を話し、頭と肩に異様な荷物を背負っている外国の男女、子どもがいる。……彼らは非アメリカ的な思想と習慣に強く影響され、他民族を受け入れない難攻不落の集団を形成している……しかし、われわれの目的がわれわれの社会共同体の性格を変えることであるならば、われわれはこれらの人々に最良の福音設備を与えるべきである。その際、最も有効な手段は、予防的で教育的なものであ

り、持続して行われなければならない仕事は子どもに向けられるであろう。都市の福音伝道活動の困難な問題を解く鍵は、幼い子どもの小さな手に握られている」と述べた (Vandewalker, 1971 : 82)。そのうえで彼が提案したのは、3歳から7歳までの子どもたちを受け入れる教会幼稚園の設置であった。

### 3. 幼稚園運動におけるキリスト教的社会変革のエートス

#### 3-1. 「社会的福音」としての幼稚園教育

すでに述べたように、幼稚園「拡張期」の1870、80年代のアメリカでは、移民の増加と都市化工業化に起因した社会問題が深刻化した時期でもある。都市部では特に、貧困からくる子どもたちの非行、犯罪が問題となり、その予防が社会における重点施策となった。これらの社会政策は「貧乏戦争」(the Battle to Poverty) と称された。

ジョサイア・ストロング (Josiah Strong, 1847-1916) やラウシェンブッシュ (Walter Rauschebusch, 1861-1918) らによる、いわゆる「社会的福音」(Social Gospel) は、こうした社会問題の解決を意図したものであった。この考え方は、基本的には弱者救済の理念に基づいていたが、運動としてみた時に、従来の個人の魂の救済というよりも社会的で地球的な救済の一環としての社会活動を奨励するものであった。つまり個人的から社会的救済へと視点がシフトしたのが、19世紀末のアメリカのプロテスタント精神を基調とする社会的福音運動であった。このシフトに関してアメリカ宗教史家ミード (Sidney E. Mead) は、

次のように解説している。「それまでの長い間、教会の中だけで宗教心をもちつづけてきた人々にとって、新しい事態がおこった。彼らは今や宗教生活を社会に適用させなければならなくなった。なぜならば、古い時代の宗教的流れは、今では社会目的という、より幅広い水路に注ぎ込み、そして公共の正義と愛を達成する方向へと急速に流れ込んでいるからである。この動向は、“宗教の偉大な仕事”であることの認識が深まってきたことの証しである」(Mead, 1963 : 181) と。

教会による幼稚園の設置も、巨視的にみたとときに、こうした「社会的福音」の一つの現れであったといえる。このような見方を上野は次のように傍証してくれている。「本来キリスト教教会の抱える当面の課題として、第1には教会の担う新しい基本的課題を解決するための基礎的な原理をどのように解釈するかということと、第2にはその社会的活動の形をどのように認識し拡大していくかということにあった。しかも、当時国民の大部分が社会的な関心や責任を成長させてきたにも拘らず、いずれの教会も社会的改革のプログラムをあえて企画することができないという事態にあった。こうした背景から、19世紀の最後の4半世紀において、公私を問わず汎愛的な事業が急速にその重要性を加えて、これに対する社会一般の関心を惹き起こしてきたことと、このような汎愛的な関心が児童期やその救済機関に対して集中してきたことは、当然の成りゆきであったと見られるであろう。... (中略) ...幼稚園においても、子どもに新しい生活態度を創造しようとする場合、子どもの発達にとって最

良の条件を確保するために、家庭と協力しながら、すべての年齢の子どものために汎愛的な精神を教化する上に少なからぬ貢献をしてきた」(上野、1995: 52-53)。

### 3-2. 社会事業としての展開

#### 1) 幼稚園協会における宗教と世俗の融合

幼稚園運動期には、「社会的福音」という同じ目標を共有して、世俗的で宗教的な団体がしばしば協力している。その団体の担い手の多くは女性たちであった。たとえばキリスト教女性禁酒同盟(The Woman's Christian Temperance Union)のようなプロテスタントを主体とする大規模女性団体が、社会改良の手段として幼稚園を採用した。敏腕のフランシス・ウィラード(Frances Willard, 1839-1898)の指導の下、この同盟はアルコール中毒者への酒類の販売と消費の禁止を中心的目的に据えて、飲酒のあらゆる厄介な原因の除去に取り組んだ。1880年に女性キリスト教禁酒同盟は幼稚園部門を創設し、アメリカで最初の授業料無償幼稚園を後援したが、総じて会員は熱心なプロテスタント精神に満ちていた。この幼稚園の多くの幼稚園教師たちは、宗派的な教えを避けることによって彼女らの運動の本来の宗教的寛容の精神に固執した(Allen, 2017: 74)。

キリスト教的人道主義による宗教と世俗の協力はまた、幼稚園協会設立として結実していく。これらは「無償幼稚園協会」(Free Kindergarten Association)と呼ばれ、慈善幼稚園運動の拠点となった。ミルウォーキー(1870)で最初の幼稚園協会が登場し、その後全米各地で同様の協会が設立された。そのなかでサンフランシスコの

ゴールデン・ゲート幼稚園協会(the San Francisco's Golden Gate Kindergarten Association)の幼稚園事業は、慈善的市民活動の典型例である。

1870年頃にアメリカ合衆国にやってきてボストンおよびワシントンで働いていたドイツの幼稚園教師エマ・マルウェデル(Emma Marwedel, 1818-1893)によってカリフォルニアで最初の幼稚園が設立された。1876年にマーウェデルは、慈善家キャロライン・セヴェランス(Caroline Severance)が開設した倫理文化協会(Ethical Culture Society)の要請に応じて彼女の仕事をサンフランシスコに移した。この協会の長は、フェリックス・アドラー(Felix Adler)で、ドイツ人ラビの息子として両親と共にアメリカに移住し、数年間ドイツに戻って哲学を学んだ後にコーネル大学とコロンビア大学で哲学を教えた経験をもっていた。倫理文化協会は、共通の倫理的信念に基づいてすべての宗教的信仰者と無神論者および不可知論者の団結を目的としており、1877年にニューヨークで最初の無償幼稚園を設立し、翌年にはサンフランシスコに同様の幼稚園を開設した。設立当初より、サンフランシスコの幼稚園運動は急速に成長した。

1880年代までに、女性キリスト教禁酒同盟は、多くのサンフランシスコの女性を活動に惹きつけた。その中には、長老派の教授の妻サラ・クーパー(Sarah Cooper, 1835-1896)がいた。彼女は、1879年にサンフランシスコにジャクソン・ストリート幼稚園(the Jackson Street Kindergarten)を設立し、幼児たちの教育に尽力していたが、その中では宗派間の違いよりも「神の

愛と親切」(divine love and helpfulness)の精神が置かれ、「放任された子どもたちのために無償幼稚園を設立することによって、より優れた国民性の基礎を確立」することを目的としていた(Vandewalker, 1971 : 67)。クーパーが同じく長老派教会員、フィービー・アッパーソン・ハースト(Phoebe Apperson Hearst, 1842-1919)を採用したとき、サンフランシスコでの彼女の影響は最高潮に達した。

## 2) 社会的セツルメント事業と幼稚園教育の結びつき

キリスト教的人道主義に基づく教会幼稚園と連動する形で、シカゴにおいてはスラム街を中心に社会的セツルメント事業が展開された。「セツルメントと幼稚園は、その精神において非常に類似しており、セツルメントの責任はもともと保育であった。それゆえにいくつかのよく知られたセツルメントは、伝道団体が運営する幼稚園として始まり、またその活動の拡大によって自然にセツルメントとなった」(Vandewalker, 1971 : 107)とヴァンデウォーカーがいみじくも述べているように、それは、貧困家庭に人々の相互扶助による経済的生活の自立と生活水準の向上を目的とした事業であり、必然的に幼稚園教育と結びついていた。

1889年にジェーン・アダムズ(Jane Addams, 1860-1935)がシカゴのハルハウス(Hull House)を創立したとき、幼稚園運動はもう一つの主要な社会改革としてのセツルメント運動の一部となった。セツルメントは主に貧しい移民の多い地域に奉仕したにもかかわらず、そこでは物質的

な苦痛を和らげることを目的としなかった。そこでは、教育、文化的豊かさ、そして社会的サービスを提供することによって共同体意識を築くことに重きが置かれた。セツルメント事業自体はイギリスで始まったが、運動としてはアメリカの都市部でその最大の成功を見た。

アメリカにおけるセツルメント事業は、しばしば幼稚園と結びついており、幼稚園から生じたものもあった。例えば1896年に、レイヴィルのアーチバル・ヒル(Archibald Hill)は、彼の姉妹パティ・スミス・ヒル(Patty Smith Hill)が1889年に彼女の幼稚園を創設した近所に彼の都市セツルメントを付設した。そこでは、幼稚園のプログラムだけでなく、新しくやってきた移民用のプログラムも提供していた(Allen, 2017 : 80)。

ハルハウスによって最初に提供されたサービスは、母親が仕事にいつている間にケアを必要とする多くの幼い子を対象とする幼稚園教育であった。この幼稚園は、1896年に印象的な新しい子ども用の建物に収容された幼児期から青年期までの子ども向けの多くのプログラムの最初のものである。ハルハウス開設当初アダムズは、「キリストの精神を社会事業サービスにおいて、行動によって、表現しようとする意向で行われている」(Addams, 1893 : 20)と宣言していた。彼女によると「貧しい者の生活を共有しようとする衝動、宣教とはかわりない、社会事業サービスにキリストの精神を表現させようとする願いはキリスト教それ自体とともに古いのである」(Addams, 1893 : 17)。

その後、1905年までに、二百あるアメリ

カのセツルメントうちの半数が幼稚園教育を提供するようになった (Allen, 2017 : 80)。もちろん、セツルメントは主として子どもたちに対するものではなく、大人に対するものであった。しかし、ある意味では、成人向けプログラムは幼稚園と同じ教育理念を反映していた。それらはすべて、個人が都市環境に適応できるようにする実践的、認知的、社会的スキルの開発を通じた貧民救済を目的としていた (Allen, 2017 : 80)。ドイツ系アメリカ人の幼稚園教師アマリ・ホーファー (Amalie Hofer) は、セツルメントは一種の「大人のための幼稚園」(kindergarten for adult) であると述べた。

#### 4. 幼稚園運動の岐路と慈善幼稚園

1873 年のセントルイスにおけるブローとハリス主導による幼稚園の公立化を皮切りに、19 世紀の最後の十年間にアメリカ全土において公立幼稚園数が増加していった。その前年の 1872 年には「全米教育協会」( the National Education Association) が結成され、1884 年には協会の中に幼稚園部門 (Kindergarten Department) が設置されている。1888 年と 1900 年の比較では (Vandewalker, 1971 : 185)、幼稚園児 31,227 人から 225,394 人に増加し、そのうち公立幼稚園児は、15,145 人から 131,657 人に上り、幼稚園そのものの発展とともに、公立幼稚園が飛躍的に発展したことがうかがえる数字である。

教会に設置された幼稚園のなかにも公立化の選択をした園もあったが、私立として運営していた慈善幼稚園は、幼稚園を公

立学校体系と結びつけることによって幼稚園を普及させるか、慈善幼稚園によって幼稚園を普及させるかをめぐって意見が分かれた。

この流れのなかで、教会幼稚園をはじめとする無償幼稚園運動の担い手たちからは、公立化とは別の選択を主張する声もあった。無償幼稚園は、既述の通り、設立当初より社会的福音としてのキリスト教的人道主義による慈善的精神によって牽引されており、その意味ではボランティアズムによって運営されてきた。しかも、幼稚園の公立化が進む過程で鮮明になった、学校教育体系の一部としての就学前教育という機能は、彼女たちの幼稚園教育の目的の優先順位としては低く位置づけられていた。さらに、キリスト教的人道主義によって幼稚園事業にかかわった人々は、少なからずフレーベル主義の立場にあり、フレーベルの思想に一定の理解を示していた。彼女たちにしてみれば、フレーベルの教育思想に、弱者としての子ども尊重という救済の論理をみたのであり、セツルメントと結びつくことによって幼稚園教育は、子どもを通して、大人も含めた社会改革を志す社会的福音の実践であった。こうした意味合いでは、ブライアンやヒルによるフレーベル主義批判と学校体系の一部としての幼稚園教育という構想は、キリスト教的人道主義者にとっては、あまりにも「科学的」であり過ぎた。「科学的原理」に基づく制度的アプローチは、多くの慈善幼稚園教師たちには欠陥として受け取られていた。学校制度の一部に組み入れられることに対し、たとえばある幼稚園教師は「私たちは制度を厳しく悲しい必需品として受け入れ、医



師が薬を使うのと同じようにそれらを使うことができる。これは、長く忠実な看護に伴う安定した根本的治療に代わるものではない」と述べている（Shapiro, 1983 : 91）。

何より家庭的な生活の場として出発した無償幼稚園、慈善幼稚園は、制度化された学校であることよりも、幼稚園教師と子どもとの家庭的な接触のなかに彼らの社会適応とその先にある社会変革をみていた。

## 5. 結びにかえて

以上、本稿では、アメリカ幼稚園運動期における教会内外で展開された「社会的福音」としてのキリスト教人道主義に基づく事業に焦点を当て、フレーベル主義運動史あるいは進歩主義幼稚園教育から演繹的に描かれる幼稚園発展史とは別の、いわばアメリカ幼稚園教育史の傍流を描くよう努めてきた。

19世紀後半には、伝統的教会の枠組みを越えて新しく敬虔主義的・福音主義的性格がアメリカ社会において生活感情のなかに根づきつつあった。とりわけ大覚醒以後、アメリカでは既存の教会の枠にとらわれない市民宗教としてのキリスト教の共有が図られるとともに、各教会ではアメリカをはじめ世界にキリスト教を伝播するという共通の目的が芽生え始めた。当初教会に設立された幼稚園事業は、各宗派の教義の伝道という個別な目的を持ちつつも、社会的弱者救済という宗派の枠を越えた社会事業と結びつきながら、学校体系の一部として展開していく公立幼稚園とは異なる系譜と展開を示した。結果的には慈善幼

稚園は、学校体系の一部としての公立幼稚園に比して、20世紀以降のアメリカ幼稚園教育史で注目されることはなかった。しかし他方で、進歩主義教育時代に学校体系の一部に組み入れられた公立幼稚園における社会的弱者としての子どもを尊重する態度のなかにも、幼稚園を拠点とする社会事業としての慈善幼稚園に内包されたキリスト教的人道主義に基づく社会的福音が継承されていたといえる。

## 謝辞

本研究は、日本学術振興会科学研究費（研究課題 19K14116「アメリカ進歩主義教育期における幼稚園－小学校接続に関する思想史的研究」）の助成を受けた成果の一部である。

## 注

- 1) アメリカ幼稚園運動は、ドイツから幼稚園が移入され、アメリカ独自の幼稚園が設置される「創設期」（1860-1870）、公教育に幼稚園が組み込まれていく「拡張期」（1870-1910）に大別される。本稿は、後者に主眼を置く。
- 2) ここでいう「プラグマティズム」、「進歩主義」はそれぞれデューイの経験主義教育理論と彼の後継キルパトリック（W. H. Kilpatrick）のプロジェクト・メソッドの幼稚園教育への導入を試みたヒルの実践を指す。

## 参考文献

Addams, Jane (1893), “The Subjective Necessity for Social Settlements,” in *Philanthropy and Social Progress*,

- Seven Essays by Jane Addams*, Robert A. Woods, et. Al., ed. By Henry C. Adams (rpt. Patterson Smith, 1970)
- Allen, Ann Taylor (2017), *The Transatlantic Kindergarten: Education and Women's Movements in Germany and the United States*, New York, Oxford University Press.
- Beatty, Barbara (1995), *Preschool Education in America: The Culture of Young Children from the Colonial Era to the Present*, New Haven and London, Yale University Press.
- 岩崎次郎編 (1979) 近代幼児教育史、明治図書
- Mead, S. (1963), *The Lively Experiment – The Shaping of Christianity in America*, Harper and Row.
- Shapiro, Michael Steven (1983), *Child's Garden: The Kindergarten Movement from Froebel to Dewey*, The Pennsylvania State University Press.
- Snyder, Agnes (1972), *Dauntless Women in Childhood Education*, Assn for Childhood Education Intl.
- 上野辰美 (1995) アメリカ幼稚園教育の公共性発展過程に関する研究、風間書房.
- Vandewalker, Nina C. (1971), *The Kindergarten in American Education*, New York, Arno Press.

**Aspects of Christian Humanitarianism in the American Kindergarten Movement:  
Focusing on social works based on kindergarten  
TAKASHI YAMAMOTO**

Faculty of Health and welfare Science, Okayama Prefectural University

**Abstract :** Christian churches began to be involved in the kindergarten work in the “expansion period of the kindergartens” after the 1880s in the United States. During this period, the Christian Church focused on kindergarten education, partly as a social reform project and partly as a means of evangelism. On the other hand, the “expansion period” was a period that the kindergarten was incorporated into the school system. Starting with St. Louis in 1872, many kindergartens were publicized, and the Froebelian kindergarten education theory and practice was replaced by the progressive educational theory and practice. In this article, it is clarified the role of the social work based on christian humanitarianism between Froebelism and Progressiveism, and highlights the development of Christian humanitarian as ethos in kindergarten education.

**Keywords :** The American Kindergarten Movement    Christian humanitarianism  
charity kindergarten    settlement